

8月28日(土) 10:30～12:00



トキメキ・チャレンジを語ろう

松本明香（東京立正短期大学）・米本和弘（東京医科歯科大学）

みなさん、こんにちは！

突然ですが、みなさんはトキメキにチャレンジしてみたいと思いませんか？

ですが、そもそも、トキメキって何さ？それにチャレンジするって、どういうことさ？と思う方もいるかもしれません。

ここでは、「トキメキ」とは、今まであまり馴染みがなかったけれど、ちょっと足を踏み入れてみようとする、新しいコトや新しい世界に寄せる思いとします。では、なぜそのトキメキにチャレンジすることを提案するのでしょうか？

2020年4月、コロナ禍において全国の教育機関ではオンライン授業が実施され、不慣れなオンライン授業の準備段階にいた教員が多かったと思います。私（松本）の勤務校では4月20日からオンライン授業が開始され、入学した学生と直接会うことのないままオンデマンド等で授業に踏み切らなければならませんでした。一方で、本来なら春特有の希望と緊張感に満ちた生活を送る時期なのに、登校してきてはいけなと言われていた学生たちは家でどんな生活を送っているのだろう、という心配も湧きあがりました。故郷から離れて東京に来た学生たちは、思うように外出もできず、不安のまま生活しているのではないかと。せっかくの大学生活なのにドラドラ過ごしてはいないだろうか。大学に入学したものの、目標を見失っていないだろうか…。

そんな中思いついたのが、「GW チャレンジ」でした。「ゴールデンウィークの間、なんでもいいから好きなこと（トキメキ）を一つ7日間やり遂げよう!」と、学生たちと呼びかけました。そしてそのチャレンジを設定した理由や達成感、難しかった点などを、事後に教えてもらいました。学生たちの出来はなかなか。学生たちは、面白いチャレンジの経験を紹介してくれました。それぞれが、それぞれの場所で、ちょっと新しいことに挑戦する、その振り返りを共有する。学生たちの経験の紹介の文面から、少し生き生きしたものを感じたのでした。

今回の研究集会では、「トキメキ・チャレンジを語ろう」の企画に参加されるみなさんにも、事前準備として、それぞれの「トキメキ」に1週間チャレンジしていただきたいと思っています。参加者の皆さんとはスプレッドシートを共有し、自分のトキメキに寄せる感覚を、他の方々と共有し続けられるような仕組みを作ります。毎日メモ程度に、チャレンジ中の気持ちを書き込んでください。よし、頑張るぞの気持ち？新鮮な気持ち？かったるなあといった気持ち？そんな気持ちを持ち寄って参して、企画当日にグループでディスカッションに参加していただきたいと思っています。（企画をしている私たちも、もちろん新たな「トキメキ・チャレンジ」を画策中!）

思うように人に会えずに、そして思うようにしたいことができない生活を経験した私たちは、この環境の中でも、人とつながることの大切さ、前に踏み出すことの大切さを実感してきました。これらの大切さに対する思いを教育の場で共有するには、どうしたらいいか、そこにはどんなワクワクや課題があるのかを話し合える場にできたらと思っています。あるいは、ポスト・コロナの世界でもリアルに人とつながる意味はあるのか？前に踏み出す必要ってあるのか？といった議論になるかもしれませんね。

小さな小さなチャレンジが、みなさんの話のタネになればと思っています。みなさんとお会いでき、つながれるのを楽しみにしています。